

霊峰白山と、本州最西端・毘沙ノ鼻を結ぶ “アサギマダラ”

令和2年10月18日（日）午前10時30分、本州最西端：毘沙ノ鼻駐車場に、旅をする蝶・アサギマダラが約100頭飛来、乱舞する光景がありました。

今年4月4日、吉母自治連合会（会長・清田幸男）の皆さんが、アサギマダラの休憩所にと、藤本一也さん（下関市松屋東町在住）のご好意による、フジバカマ約100株を植え付け、満開の時を迎えていました。

人にとっては、ほのかな香りが、アサギマダラにとっては、天空から舞い降りるほどの香りなのでしょう。連日、乱舞が見られました。

ところが、その中に、透き通る浅葱色の羽根に、文字を記したものが数頭見られ、出発地や月日がマーキングされたものです。おりよく、カメラにおさまった1頭に、「白山 9. 22 MS、1」とあり、白山を9月22日に飛び立ち、約600キロを26日間で飛び続け、10月18日、本州最西端：毘沙ノ鼻で休憩中だったのです。

白山（石川県：2702m）といえば、日本三大霊峰の一つで、信仰の山として知られる名山です。私事で恐縮ですが、今から10年も前、夏山登山で登頂した山です。

夏とはいえ紺色の湖水と残雪の見られる風景は、忘れがたいものでした。また、午前6時前、ご来光時には、白山神社の神職による山頂社祝詞奏上があり、厳かな空気の中に、日輪が輝きはじめました。も一度登頂したい山と尋ねられれば、即刻、白山と答える山です。

10月22日のことです。石川県の公民館から電話。と取り次がれ、受話器を受けると「白山とマーキングしたのは、私です」との声です。撮影した写真を、白山市の公民館長に送ったご縁によるものです。「マーキング教室があり、館長も1頭、お願いします。との依頼により、記したものです」と、炭谷正樹館長の補足説明です。

さらに、10月25日再度、最西端の地を訪れると、秋の柔らかな陽光を惜しむかのように、約40頭がひらひらと舞っていました。よくよく見ると、その中にマーキングされた1頭がいました。追いかけて写真に収めると「YSMO 10, 19 TAF1581」と読み取れました。解読しますと、「吉母 10月19日 福村拓己 1581」です。

まず、福村拓己さんについてですが、なんと、10年も前からアサギマダラのマーキングと取り組み、その間に6万頭もマーキングの経験があり、下関から台湾まで約1600キロ、また下関から東京の高尾山まで約1000キロも飛行したことを確証されたかたです。「YSMO」は、吉母のことで、正確にはここ毘沙ノ鼻からわずかに1キロ北の、御崎という集落でマーキングをされたことを示すものです。「10. 19」はその日付です。という

ことは、19日から25日までこの地に滞在していることとなります。吉母の地が去りがたい魅力を感じているのでしょうか。「TAF」は、福村拓己さんのお名前の省略表示で、「1581」は、今秋、マーキングされた順番で、なんと、これほどの数にマーキングされたことを示しています。

また、マーキングの目的で捕獲した中には、出発地を記録したアサギマダラも発見されています。8月11日に新潟県妙高市でマーキングされたアサギマダラが、10月16日、10月19日、10月26日に吉母で福村さんに捕獲されています。この3頭は、約70日をかけて、同じコースを飛来したことを示しています。自然界の神秘さは図りきれませんね。

10月19日、この場所で吉母小学校の児童に「マーキング教室」を開催されたことも、大いに意義深い事業で、児童が大感激されたそうです。

ここ本州最西端の地、毘沙ノ鼻が、旅をする蝶・アサギマダラの休息地として認識され、児童から大人まで自然を学ぶ聖地となりましたこと、福村さんの御指導の賜物でもありました。

あの小さな10センチにも及ばないアサギマダラが、霊峰白山と、本州最西端を結んだことも、特筆すべきことでありました。



白山とマークされたアサギマダラ（毘沙ノ鼻で）（撮影：安富静夫）